

保護者の皆様に望むこと

- 公益社団法人経済同友会 学校と企業・経営者の交流活動推進委員会 報告書
「よりよき教育現場の実現に向けて - 交流活動実践の10年の思い - 」より -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

夏休みに入りましたので、今日は「保護者の皆様に望むこと」についてお話をさせていただきます。

私は、三大経済団体の1つで、東京にある公益社団法人経済同友会という会の会員になっています。経済同友会の中に、学校と企業・経営者の交流活動推進委員会という委員会があります。そこには、10年ぐらい前から、公立の学校、私立の学校、教育委員会等から要請を受けると、交通費・謝礼等一切なしで企業経営者を派遣するというプログラムがあり、私も登録しています。そして、毎月2～3回、時にはそれ以上学校や教育委員会、PTAなどに出かけて、講師としてお話をさせていただいております。

活動が10年ほど続きましたので、「よりよき教育現場の実現に向けて - 交流活動実践の10年の思い - 」という報告書を皆でまとめました。その中に「保護者に望むことは何か」ということをまとめた文章がありますので、少し紹介させていただきます。

2. 保護者の皆様へ望むこと

よりよい保護者であるために心掛けていただきたいことへの主なメッセージは、全部で9つです。

(1) その1つめは、「世の中が大きく変化していることを保護者として理解しよう」です。生活を取り巻く環境は激変しています。保護者の皆さんや私たちが子供であった時代とは様変わりをしました。政治や経済はもちろんのこと、地球環境、新興国の台頭による国際関係、インターネットなどの情報技術、携帯電話などのコミュニケーションの手法などが大きく変化し、その変化が加速しています。有名大学に入って大企業に就職すれば一生安泰で幸せな人生が送れる、勉強はそのためにするものという考え方は全く通用しなくなったと言ってよいと思います。ですから、世の中がこのように大きく変化していることを保護者として理解し、それを子供たちに伝えることが大事であるというのが1つめのメッセージです。

(2) 2つめは、「一人の人間として子供に接しよう」です。これは、子供を一人の人間として認め、愛情を持って見守り、伸びやかな発想や感受性を大事にしていきたいということです。子供

は自分で考えて行動し、成功や失敗を経験することで生きる力と自信を身に付けていきます。依然として未熟な部分を多く持つ子供ゆえに、正しいことと正しくないことの区別や思慮に欠ける部分への助言・指導は保護者として当然すべきです。子供は未熟だからとして大目に見たり、無責任なかたちで子供任せにしたりすると、誤ったメッセージを子供に送ることになるからです。

(3)3 つめは、「かわいい子には旅をさせよ」です。これは、ただ旅をさせればよいということではありません。子供にとって本当に有益な実体験をさせるということです。多くの子供たちが保護者や学校の過保護のもとで温室育ちになり、生々しい実体験をすることなく社会に出てきます。すると、自分の育ってきた環境と実体験とのギャップと申しますか、定離に驚いて悩み、苦しむ結果になります。ですから、「かわいい子には旅をさせよ」、つまりさまざまな実体験をさせていただきたいと思います。

(4)4 つめは、「子供の個性を尊重しよう」です。子供はみんな違う。人と違う考えや意見を持つことはよいことであるという基本的な姿勢で、子供一人ひとりの個性を伸ばすことが期待されています。これからの時代は、多様な個性が互いに触発されることによって個人も社会もともに成長・発展しますので、このことをぜひ認識していただきたいと思います。特に子供の個性は十分に尊重し、型にはめることなく育ててほしいのです。また、子供に優れた潜在能力があればそれを見つけ出したり引き出したりしてあげて、それを子供自身が磨いていけるように指導していただければ有難いです。さらに、世の中一般のことだから、皆がやっていることだからという基準を意識させすぎないことも大事であると思います。加えて、人と違うことでよいことをしたら褒めることも大事になります。これが「子供の個性を尊重しよう」ということです。

(5)5 つめは、「社会の一員としての基本を身に付けさせよう」です。これは、社会の一員として不可欠な礼儀やマナー、他人への配慮、責任感を身に付けさせるということです。これこそ社会人となるための基本ですので、これらを身に付けさせるには家庭が第一義的に責任を持つべきです。家庭教育の最も基本となる場所ですので、これを一方的かつ全面的に学校教育に求めるのは保護者の自己否定であるとも言えます。

何が正しく何が間違いなのかという基本的な判断力を養うためには、叱ることも必要であり褒めることも必要であると思います。往々にして厳しい課題を子供に与えることになっていきますが、子供は大人が心配するほど弱くありません。子供は課題を乗り越えて成長し、周りからの信頼を勝ち取っていきますので、社会の一員としての基本を子供にぜひ身に付けさせていただきたいと思います。

(6)6 つめは「地域社会や学校活動に保護者として積極的に参画をし、そしてまた、地域社会や学校活動を支援しよう」です。

(7)7 つめは「子供とのコミュニケーションを増やそう」です。夏休みはよい機会ですので、お子さんとのコミュニケーションを増やしていただきたいと思います。

(8)保護者としてやっていただきたいことはあと2つあります。1つは、感受性・感性を保護者として養うことです。自然・美術館・音楽会などで美しいものを鑑賞してそこから受ける感動を大事にする子供、自然の営み・四季の変化・新緑や紅葉の色・においを感じたり話し合ったりする子供、芸術活動や創作に興味を持つ子供を育てることは大事であると思います。

(9)もう1つは、三つの「ない」、つまり「子供を待てない・子供を褒めない・子供に何もやさせない」の三ナイを保護者として払拭することです。小学校高学年、中学生、高校生の段階から自立への意識を持たせることはとても大事なことです。自分の人生をどうつくっていくかは自分の責任であることを理解させ、それに基づいて意識を持って行動するように導いていただきたいと思います。子供が自分で考えて行動できるようにするためには、先に述べた三つの「ない」を自粛したほうがよいのです。つまり、「待てない・褒めない・やさせない」を拭い去るのが、よりよい保護者になるための一条件であると思います。

3. おわりに

今日は、東京にある経済同友会でまとめた「よりよき教育現場の実現に向けて」というレポートについてのお話をさせていただきました。私を含め委員会のメンバーが10年もの間学校等に出かけて話してきたことをまとめたものですので、思いがこもっています。

*昨日も東京都立日本橋高校で1年生に対しキャリア教育の出張授業をしてきたが、この報告書の9つの内容がよく実感できる。

- 2011年3月24日林明夫記 -